



令和4年11月11日

各位

会社名 大黒屋ホールディングス株式会社

代表者名 代表取締役社長 小川 浩平

(コード番号 6993 東証スタンダード市場)

問合せ先 財務経理部長 堀内 治芳

(TEL. 03-6451-4300)

令和5年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異 に関するお知らせ

当社では、令和4年8月9日に公表いたしました令和5年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と本日公表の実績値において差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 令和5年3月期第2四半期（累計）連結業績予想値と連結実績値との差異

(令和4年4月1日～令和4年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益	包括利益
前回発表予想 (A)	百万円 7,475	百万円 23	百万円 △45	百万円 △142	円 銭 △1.21	百万円 △127
今回実績値 (B)	6,687	△32	△110	△208	△1.78	△197
増減額 (B-A)	△787	△55	△65	△66	△0.56	△69
増減率 (%)	△10.5	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (令和4年3月期第2四半期)	8,265	△24	△114	△180	△1.54	△179

2. 差異発生 の 主な理由

売上高につきましては当社グループ根幹会社である株式会社大黒屋（以下、「大黒屋」という。）において店舗売上等が計画比 644 百万円減少し 6,547 百万円に留まった事及び上海黛庫商業有限公司（以下、「上海黛庫」という。）において計画比 202 百万円の減少した事によるものです。

大黒屋においては令和5年3月期第2四半期決算短信に記載の通り、リアル店舗における売上が第1四半期から引き続き減少しており、一方上海黛庫においては中国政府によるゼロコロナ政策の継続に起因して店舗営業の展開が出来なかった事によるものです。これに伴い営業利益他各利益指標も下振れいたしました。

なお以上の通り、当第2四半期連結累計期間において業績予想値を下回る結果と相成りましたが、日本国内において本年10月11日に渡航制限が撤廃された事により、それ以降大黒屋の各店舗では台湾やタイ、ベトナム、フィリピン等東南アジア諸国の渡航客の来訪が増えておりコロナ以前のインバウンド再来が始まっている事を鑑みて、下期において上期の差異を十分挽回可能と判断し、現時点においては、令和4年8月9日に公表しました通期連結業績予想に変更はございません。

以上